

心の根っこに触れる唄

藤本容子



様々な先生方の導きにより、唄が好きになる研修生。近隣の松ヶ崎中学校の生徒さんと一緒に作った「友情ソング」は、毎年の交流会で歌い継がれている。



鼓童の研修生が、太鼓が好きで入って来るといのは当然のことですが、唄が好きという人は少なく、どちらかというと苦手な人の方が多いのです。ですので、私の研修所で一番の役目というのは、そんな研修生達の全員が、歌うことを好きになるまで持つていくことです。そのまず始めは、上手下手の以前に、唄は人間の深い感情の中から、自ずと湧き上がってくるものなのだということ。これは、上達することを目指す上においても、基盤になる必然です。

私は、どんなに文化や宗教や国籍が違って、人間として相通じる心の根っこというものがあると思っています。そこから湧き上がってきた唄は、どこで誰が聞いても心に染みてきます。言葉が分からなくても励まされたり、理屈を超えてグーツと心の深いところに響いて癒されたり、懐かしい気持ちになったり……。そんな私達人間の生まれてきた源に触れられるような素晴らしい唄を、たくさん探して、分かち合いたい。そして、そのことを集中して研修生に伝えられるのが、年に二度、寒くて寂しい冬の時期に行う二日間の「ヴォイスサークル」です。自分のこれ

までの出会いの中で心の根っこに触れた、アイヌやアメリカ、ハワイ、マウイ、台湾などのネイティブの方々の唄を紹介しながら、自由発声などにも取り組み、豊かな唄と声の世界を皆で体感し、それによつて引き出された研修生達の思わぬ二面に、私も驚き楽しみ共に喜びを感じています。

六年ほど前から、声の力を引き出すことと、日本の唄の音階の基礎、日本語を丁寧にに語ることを学ぶ為に取り入れている『ひふみ祝詞』という曲があります。この唄の真意は、「私達人ひとりはこの世に生まれて成すべきことがあり、成したいことがあり、その力を授かつて生まれてきた。だから私達はこの世にある限り、その願いと夢と力を自分の中から汲みだして生き生きと生ききろう」というものだそうです。どんな事態が来ても、それに正面から向き合い、一歩踏み出して越えて行く気力、体力、魂力が培

われることが研修所の第目標。私はそれにプラス、情感力を育てることを上げたいと思います。情感とは、自分だけでなく相手を思うことです。周囲、世界、自然界の情をどう受け取り、返すかということです。この力は唄と切っても切り離すことはできません。情感は声の音色にそのまま表れ、その人の今の存在全体を伝えてくれるからです。

この二年間の研修所生活をどう生ききるか。それがその後の人生を創る大きな基盤になります。日々、悩みや戸惑いが訪れようとも、『ひふみ祝詞』の歌詞を思い出して、自分の中には願いとそれを果たす力があるのだと、今はそこに向かう為の一歩なんだと、自らを信じ励ましてゆけるよう、願つてやみません。

※研修所の唄のカリキュラムについては、外部講師として岡田京子先生、伊藤多喜雄先生、野上結美先生にもご指導いただいています。

2013年 研修所講師の先生方 (敬称略)

- 福嶋徹夫 [講義] 元・新潟県栽培漁業センター所長
- 桃井宗生 [茶道] 裏千家学校茶道教授
- 松永政雄 [能] 宝生流教授囑託・幸清流小鼓準職分
- 金城光枝 [琉球舞踊] 琉球舞踊家・太圭流華の会師範
- 岡田京子 [歌] 作曲家
- 伊藤多喜雄 [唄] 民謡歌手
- 野上結美 [ヴォイストレーニング] 声楽家
- 赤塚五行 [俳句] 新潟日報佐渡版俳句選者
- 葛原正巳 [陶芸]
- 岩崎ちひろ [魚のさばき方] 魚屋
- 松田祐樹 [講義] 佐渡の芸能研究者
- 狩野泰一 [笛] 篠笛奏者
- 金子竜太郎 [太鼓など] 和太鼓奏者

鼓童メンバー講師

- 藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、大井キヨ子、山口幹文、齊藤栄一、見留知弘、辻勝、船橋裕一郎、石塚充、小田洋介、菅野敦司、本間康子、千田倫子、石原泰彦、後藤美奈子、土橋達也